

先輩たちの相談を役立てる

## 9 通のご相談メール

掲載された事例はいずれも、複数の事例をもとによくある相談として新たに創作したものです。

特定の方のご相談内容をそのまま用いたものではございませんので、ご安心ください。

## 相談 1

小さな地元の塾で予習シリーズを使って授業を受けています。

娘は授業は理解してその日は気持ちよく帰ってきますが、内容をすぐに忘れてしまっています。

忘れないように基本問題や例題を繰り返し解かせたり、少し予習を手伝ったりしていますが、実力テストで点がとれません。算数は 40 点台、国語は 60 点ほどです。

4 年生の今はまだお稽古事の練習時間を確保したいので、予習ナビ+通塾テストコースに変えたいと思いますが、この選択は間違っていますでしょうか。

今の塾では国語と算数のみ受講しています。四谷直営校舎は少し遠く、週一回なら何とか通えると思います。テストコースよりも、授業コース二回のほうが有益でしょうか。

どんなことでも、アドバイスお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

---

ご相談メールをありがとうございます。

中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

四谷大塚を利用するとして、「テストコース」にするか「授業コース」にするかですが、お子さんが「予習ナビ」に向かい合って授業を受けられるのであれば、特に授業コースを選ぶ必要はありません。

集団（クラス）という競争意識が発生する環境が、お子さんにとってあまりプラスにならないように感じられるのであればなおさらです。「テストコース」を選び、授業を予習ナビに任せたとときのデメリットは、困った時に質問できる人がいない、という点です。

また、入試に至るまでには親子共にさまざまな悩みが発生するものですが、そのときにすぐに相談できる人がいない、という点も不安かもしれません。

したがって、もし予習ナビを利用されるのであれば、困った時に頼れる家庭教師や個別指導講師などを探しておくといいでしょう。

授業コースを選ぶ場合は、お通いになる校舎の運営や校風は、校舎責任者の人柄や方針に大きく左右されるという点は覚悟しておきたいものです。年度毎の講師配置やクラス替えなどで校舎責任者や担当講師が入れ替わるのもよくある話で、4 科目の担当講師すべてがお子さんにぴったりあっている、という状況はほとんど期待できません。

塾はあくまで「使いこなす」ものであり、基本的には手取り足取り学習指導をしてくれる存在ではありません。それができる講師と出会えたら、それは非常に幸運なことです。

ですから、環境を変えたら、まずは授業の復習とテストに向けた学習、そしてテストの直しを中心とした一週間の学習サイクルの確立に集中しましょう。

そこさえ確立してしまえば、多少の講師陣の変更にも動じない、自分で自分の成績を上げて行ける状況が生まれます。また、それは私立の中学校に進学した後にこそ役立つ、大きな財産になります。

最後になりますが、小 4 のうちはお稽古ごとに時間を割かれないとのことですが、もしできましたら今の時期から理社にも取り組まれることを強くおすすめいたします。

四谷のカリキュラム（に限りませんが）では、小 4 の内容を抜きにして、たとえば小 5 になってから合流する場合、かなりお子さんに負荷がかかります。

最終的に 4 科での受験をお考えの場合、遅くとも小 4 の 9 月以降は理社にも取り掛かった方が良いでしょう。

お子さんが 2 年後の入試で良い成功体験を積まれますよう、心からお祈り申し上げます。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康

## 相談 2

勉強をしている割には、カリテ、模試ともに成績が上がらない。  
勉強することに対しては、嫌がっていないのですが...

---

ご相談メールありがとうございます。  
中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。  
わずかでも参考にしていただければと思い回答させていただきます。

>>勉強をしている割には、カリテ、模試ともに成績が上がらない。

とお悩みになる親御さんのお気持ち、よく分かります。  
本人が嫌がらずに勉強に取り組んでいるからこそ、気持ちよくよい成績を手にして明るく塾に通ってほしい  
ものですね。

生徒の「考える力」を伸ばすことを標榜している日能研のテストは、そもそも、「範囲」の知識を取りいれ  
ただけでは7割くらいしか得点できないように設計されています。  
もちろん、「範囲」と無関係の問題が出題されているわけではありません。  
しかし、試験の場で問題が「問うていること」を正確に読み取り、それに答えていく力を身につけていない  
と成績が一定のラインから伸びていきません。

お子さんにぴったりあったアドバイスを差し上げるにはやや情報が少ないので一般論に近くなってしま  
いますが、たとえば算数を例に挙げますと、それぞれの問題に対して「解き方を暗記する」ことで対応して  
いることが多かったりはされないでしょうか。  
まじめにコツコツと積み上げていけるお子さんこそが陥りがちなワナですが、もしそうだとすれば普段の学  
習の方法を少しだけ変えてみた方が良いかもしれません。

算数の宿題を解く際に、

- (1)「その問題は何を問うているのか」
- (2)「その問題で提示されている条件は何か」
- (3)「その条件を生かすためにはどのような図(式)をかくべきなのか」

の3点を常に考える、ときには書き出していく習慣を付ける必要があります。  
さらに「図(式)をかいているとき」に、常に、「今、自分は何を求めようとしているのか」を考える習慣  
までつけば最高です。  
本格的に過去問演習が始まる前にこの習慣をつけることができれば、本物の「考える力」を身につけるこ  
とができます。

「暗記」の方がある意味では楽ですので、最初こそ負荷を感じるかもしれませんが、この「考える力」は実  
際の入試問題に対応するのに確実に必要となる力です。  
早いうちに意識されることをお勧めしています。

算数の学習を中心に、この習慣を積極的に身に付けていくことができれば国語や理社など、他の科目の成績も上がっていくはずです。

勉強が嫌いではなく、コツコツと暗記を進めることができているお子さんが、常に「今、何を問われているのか」を考える力を身につければ、成績が上がらないわけがないのです。

より効率良く学習を進めていくために学習方法の見直しを随時かけていくことができれば、最終的に「まじめにコツコツ」積み重ねていけるタイプのお子さんは本当に本番に強いです。

見守る大人としては、ただでさえ過負担になりがちなカリキュラムを、できるだけストレスの少ない状態でこなせる環境を整えてあげたいものですね。

上記のような視点からお子さんの学習スタイルをもう一度ご覧いただき、お気づきの点等ございましたら、まずはお通いの塾の信頼できる先生に、それが難しければお子さん1人ひとりをじっくり見てくれる近隣の個別指導講師や家庭教師などを探して、さらに具体的なアドバイスを求めてみるのも良いでしょう。

お子さんと、そして親御さんのご健闘が良い結果に結びつきますようお願いしております。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康

### 相談 3

日能研でクラスが下がりました。小4の後半から日能研のフォローのためにトーマスで算数のみ学んでいます。娘はのんびりした子で競争心もあまりなく、でもふまじめでもありません。

最初は日能研を辞め、トーマスに絞ろうかと思っていたのですが、まさかクラスがこんなになるとは思わず、転塾も視野に入れていました。

日能研プラス家庭教師か、四谷大塚または個人塾を探したほうが良いのでしょうか？

迷いに迷っています。

何か指針となるようなアドバイスをお待ちしております。

---

ご相談メールをありがとうございます。

中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

親御さんがお子さんのために、お子さんにもっとも適した学習環境を探そうとされている努力には本当に胸をうたれます。

塾選びというのは本当に難しいものですね。

親御さんも重々ご承知の事実かもしれませんが、基本的にこちらの要望をすべて満たしてくれる塾と言うものは存在しません。

すから、まずは塾を選ぶにあたってのご家庭の優先順位をはっきりさせることが何よりも重要なこととなります。

お話をお伺いしますに、親御さんは塾を選ばれる際、まずはお子さんの意志を優先されているようにお見受けします。実際にお子さんがどのような視点から塾の良しあしを判断されているのか、子どもですから多分に直観による部分もあるかもしれませんが、それでもそこを親子で話し合っ確認してみるのはいかがでしょうか。

大手塾に通わせていればなんとかなった昔とは異なり、入試へ至る道もかなり多様化してきました。

集団塾と個別の併用や個別だけの学習なども視野に入ってきますと、本当にどうすればよいのか分からなくなってきました。

ただ、もしお子さんが「集団授業」を極端に嫌がっているのでなければ、少なくとも6年前期の新出単元が一巡する時期までは集団塾のカリキュラムを利用した方が良いでしょう。

近年の入試全体の傾向として、難問、奇問が少なくなってきた代わりに、非常に広範囲な知識が求められるようになってきたという点が挙げられます。

大手塾のカリキュラムはやはり広い範囲をうまくカバーしているものが多いですし、早いうちから個別的環境にのみおくと、知識の幅がせまくなる(先生が知らないものは知らない)状況を招く可能性があります。

しかし、ここが難しいところなのですが、集団塾というのは「偏差値」という意味での成績を上げてはくれません。

不特定多数の生徒に対し均一なサービスを提供しようと努力しているわけですから、これはある意味では当

然のことです。

もちろん、例えば SAPIX が合っているお子さんは熱血指導の早稲アカには向かないかもしれませんが、SAPIX ではテキストやテストが難しすぎてモチベーションが維持しにくいお子さんもいらっしゃいます。そういった意味で塾選びは重要です。

しかし、実はお子さんの成績を左右するのは、どの塾を選ぶか以上に、その選んだ塾をいかに使いこなすか、なのです。

日能研で成績を上げるためには、授業の復習・宿題・カリテの準備・カリテの直し等から構成される一週間の学習サイクルを回していくことが絶対条件です。

そして、親御さんからすると厳しい現実ですが、この部分は各ご家庭に任されていることがほとんどです。もちろんこのフォローをすべて親が行う必要はありません。

状況が許すのであれば、プロの家庭教師や個別指導塾を利用する価値がここに発生します。

そして、家庭教師や個別指導塾を利用する際の最大のポイントは、どこを使うか以上に「誰に教わるか」です。

やや手間と時間がかかるかもしれませんが、中学受験指導における十分な知識と経験を持ち、お子さんのことをじっくりと見てくれるお子さんの「味方」に出会えたならば、それはこの先の決して短くは無い入試への道のりを歩むにあたっての大きな支えになります。

逆に、志望校がはっきりと決まり、入試が近づいてくれば、過去問演習と弱点補強が学習の中心になりますので、個別指導のみでフォローしてもらうことも十分可能になってきます。

たとえば、洗足は合格者の 8 割を算国の得点のみで決めます。

併願校のことまで考えると、早いうちから算国の学習に絞るのはリスクが大きいかもしれませんが、直前期には算国の比重を上げた学習をした方が良いでしょう。

ただ、それまでの間は、もう一度、ご家庭の塾に求めるものの優先順位をはっきりと決めた上で、お子さんにあった集団塾を選び、その塾で成績を上げて行くために必要な学習サイクルの構築を的確に手伝ってくれる「人」を探すことによって成績の向上を目指すのが「正解」であることがほとんどです。

この作業がご多忙なお父さん、お母さん方にとって本当に大変な作業であることは承知していますが、それでもこの回答が、親御さんにとってわずかでもお力になることができれば幸いです。

お子さんと、そして親御さんのご健闘が良い結果に結びつきますようお願いしております。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康

## 相談 4

娘は復習がうまくできません。次の授業までの一週間間に復習をするのですが、ノートを見ても自分で復習できず、ノートに書いてあるけど何でこれを書いたのかな？と言っています。

その為、毎回算数の授業でやったところを、親がもう一度授業し直してる状態です。  
今はまだ低学年なので教えられますが、学年が上がってくると教えられるかどうか不安です。  
どのように復習をさせたらいいのか、親も分からず困っています。  
子供に自分でノートを見て、復習させるのか？  
親が分からないところを教えながら復習していくのか？  
どのようにしたらいいのでしょうか？

よきアドバイスをお願いします。

---

ご相談メールをありがとうございます。  
中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

保護者の方が、お子さんのことを本当に一生懸命考えていらっしゃる、それゆえにいろいろなご不安と戦っていらっしゃる様子が伝わってきました。  
もしかしたら以下の「アドバイス」は、親御さんの意に沿うものではないかもしれませんが、わずかでも参考にいただければ幸いです、回答差し上げます。

成長には個人差があるものですが、往々にして、女子のお子さんにとって小学3年生というのは、自我やプライドといったものがかなり強く意識されてくる時期です。  
できるだけお母さんやお父さんの前ではいいところを見せたい、というのが本音です。

ですから、授業を終えて帰ってきたお子さんに、まずかけてあげたいのは、  
「今日は何をやったの？」  
という問いです。

そして、ここがもっとも重要で、そしてもっとも難しいところなのですが、お子さんが「できること」「分かっているところ」だけを説明してもらうです。  
私自身も実際に子どもを育てた経験から、ここで「分からなかったところ、ない？」と聞きたくなる気持ちはよく分かります。  
しかし、小3のタイミングで、お子さんが「分かったところ」より、「分からなかったところ」をクローズアップされたと感じ続け、勉強そのものに「満足感」を感じられずに育つのはあまりにももったいないのです。

1日に1回、10分でも20分でも構いません。  
「今日は何をやったの？」  
「昨日は何ができるようになったんだっけ？」

というような、「分かったところ」に目を向ける復習をさせてあげてください。  
もちろん、これはそれ以外何もしなくても良い、という意味ではありません。

「分からないところ」を突き詰めていくのに適した時期ではないかもしれませんが、市販のパズルや「遊び」を通して、算数への興味を広げていったり、立体の感覚を身に着けたりと、今だからこそやっておきたいことはたくさんあります。

知っている言葉を増やすのも大切です。

今まさに、お子さんはご自身の「器」を形作っている最中で、この「器」がある程度大きくなると（もうすぐです）、「分からないこと」にもチャレンジできるようになります。

その「器」は、お子さんの語彙や「表現力」によって固められていくのです。

今、中学受験のカリキュラムは非常に難しくなっていますので、ほとんどの保護者の方にとって、5、6年の算数を分かりやすく教えるのは至難の技です。

むしろ、お母さん、お父さんのもっとも大切な役割は、お子さんが「出来るようになったこと」に注目し、お子さんの成長に常に目を配り、「分からないところも分かるようにしたい」という欲が出てきた瞬間を逃さず、塾の先生に質問にいかせるのか、家庭教師を付けるのか、なにか資料を調べさせるのか、といった解決手段を検討し差配してあげることです。

見守る側の親が「できないこと」に目を向け続けたり、不安にさいなまれ続けたりしていると、それは確実にお子さんにも伝わっていきます。

中学受験まであと4年弱、オリンピックの準備にも似た長期戦です。ぜひ、親子二人三脚で、まずは「できるようにになったこと」に目を向けるプラス思考で、この4年弱を明るく歩まれますようお願いしております。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康

## 相談 5

初めまして、お世話になります。

志望校を目指して、小3より日能研に通っております。4年生から学力別のクラス分けになりましたが、現在〇〇クラスに在籍中ですが、授業内容に殆ど付いて行けない状況です。

主人は、かつて中学受験を経験しており、ノウハウは心得ておりますが、娘が素直に聞き入れられない事もあり難航しています。

現状で、娘に合った塾、勉強法が定まらず、今後の受験対策に苦戦しております。

志望校は超難関校の部類ですが、現状の成績が奮わない者は、志望校自体を見直すべきでしょうか？

本人のやる気は感じられますが、結果が全く伴いません。

特に算数は、毎回テストの結果が平均以下です。

アドバイスのほどを宜しくお願い申し上げます。

---

ご相談メールをありがとうございます。

中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

本人がやる気になっている以上、見守る大人としては、そのやる気をなんとか成績に結び付けてあげたいものですね。「授業内容に殆ど付いて行けない状況」は、具体的にお子さんのどのような行動に見え隠れしているのでしょうか。

たとえば、栄冠の宿題に取り組むときに、授業で扱われたはずの問題の類似問題が解けないような状況ですと、実際に塾の先生が授業をどのように進めていらっしゃるのか、あるいは、お子さんがどのように授業を受けているのかが気になってきます。

そう言った場合、私は塾の授業がどのように進められているのかをお子さんにヒアリングすることになります。

「先生が教室に入ってくる時、周りは騒がしいの？それとも静かに待っているの？」

「今日は、授業が始まる時、先生はなんて言ってた？」

「先生がこの問題の解説をしているときに、どの辺まではよく分かった？」

と言った具体的な質問を繰り返していきます。

詰問にならないようにする気遣いは求められますが、このようにして実際の授業をお子さんがどのように受けているのかを確認します。

その上で、まずは授業を受ける方法を改善することで、授業から持って帰る情報の量を増やせないかを検討します。

日能研の先生は、授業に予習は不要、もしくは予習しないで下さいとおっしゃる場合が多いですが、数学的な解き方を教えてもしない限り、予習すること自体が理解を妨げることはありません。

予習とまではいなくても、5~10分割いて、次の授業に「自分は何を習いに行くのか」という意識をもって臨むだけでも、授業から持って帰れる情報の量はだいぶ変わるものです。

ご帰宅されてから宿題として指定されている問題を解く際には、

- (1) 「その問題で示されている『条件』は何か」
- (2) 「その条件を生かすためにはどのような図（式）をかくべきなのか」

の2点を、常に考える、ときには書き出していく習慣を付ける必要があります。

小4のうちにこの習慣をつけることができれば、本物の「考える力」が身につきます。

解き方を丸ごと覚えてしまう「暗記」の方がある意味では楽ですので、最初こそ負荷を感じるかもしれませんが、この「考える力」は最終的に実際の入試問題に対応するには絶対に求められる力です。

「次のテストで似たような問題が出たときに解けるようにするために、自分は今、勉強しているのだ」という意識は大人にとっては「あたりまえ」のことかもしれませんが、多くの中学受験生にとっては「あたりまえ」のことではありません。

その「意識」を手に入れた子から、安定して成績を伸ばしていきます。

しかし「意識しなさい」という声掛けは子どもには届きにくいものです。

したがって、学習の仕方を具体的に少しずつ変えていくしか方法はありません。

上記のような視点からお子さんの学習スタイルをもう一度ご覧いただき、お気づきの点などございましたら、まずはお通いの塾の信頼できる先生に、それが難しければお子さん1人ひとりをじっくり見てくれる近隣の個別指導講師や家庭教師などを探して、さらに具体的なアドバイスを求めてみるのも良いでしょう。

志望校は早めに決められるに越したことはありませんが、今の時期の成績をもとに決める必要はありません。

今は、必要に応じてプロに相談しながら、具体的にお子さんは授業の前後とカリテの前後に何をすれば成績が伸ばしていけるのか、「今の」お子さんにぴったりの学習サイクルを見つけることに集中した方が良いでしょう。

お子さんと、親御さんのご健闘が良い結果に結びつきますようお願いしております。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康

## 相談 6

初めてご相談させていただきます、本人の父親です。

これまでも各テスト受けてきましたが、どうしても時間内にすべてを記入する事が出来ません（特に国語、たまに算数もある）。

大問が空白もしくは途中で時間切れが多々あります。

後、4教科通じて細かいミスが多少目立ちます。

クラスを行ったり来たりでいまいち安定しません。

どのような点に気を付け、又、親としてどのポイントを抑えてフォローしていけば良いのか、是非ご指導願いたいと思いますのでよろしくお願いします。

---

ご相談メールをありがとうございます。

中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

**SAPIX** という塾の大きな方向性として、具体的な「テストの受け方」「効率の良い点数の取り方」を積極的に教えないというのがあります。

それぞれの校舎・先生方の指導の匙加減にもよるのですが、少なくとも国語に関してこの傾向が顕著です。

とにかくたくさん文章を読み、経験値を積んでいくという指導は、筑駒・開成をはじめとする難関校の対策として非常に有効であることは合格実績が証明していますが、それだけでは太刀打ちできないほど「**SAPIX** のテスト」は難しい、言い換えるならそれなりの対策が可能であるのもたしかです。

**α**レベルのお子さんでしたら、自分の力で試行錯誤し自分なりの「テストの受け方」を確立させていくだろう、と考えることもできます。

ただ、早いうちからより上のクラスで授業を受け続けたいと考えると、そう言ってもいられませんね。

「今回は本文のこんなところに線を引いてみよう」

「今回は選択肢をこうやって解いてみよう」

「今回は抜き出しをこうやって解いてみよう」

といったテストへの取り組み方を、一回一回のテストの度に親子間でひとつかふたつ決めてからテストに臨み、テスト中に出来ることを増やしていく、という意識が必要になります。

具体的にお子さんにどのような解き方があっているのかは、力のある（問題に詳しく、またお子さんのクセ、考え方の傾向を見抜くのに長けている）個別指導講師や家庭教師に聞くのが早いですが、ご相談のように時間配分にお悩みならば、「時計をみるタイミングを決めておく」というのがひとつの手っ取り早い方法です。

「大問 1 から 2 に移るところで、時計を見て時間（あるいは残り時間）を問題用紙にメモしておこうか」

といった声掛けをすることになります。

時間意識が希薄で時間不足に陥りがちな生徒さんなら、このような声掛けだけでも予想以上に改善することができます。

時間が足りない原因が「読むのが遅い」「選ぶのが遅い」「書くのが遅い」と、はっきりしている場合は、読み方や解き方に関する具体的な指導が必要になります。

ミスに関しては最後までついて回る問題です。

頭の回転が速いがゆえにミスが多発するのは、筑駒を志望するお子さんに共通する特徴といっても良いかもしれません。

最近、開成は問題の難易度が全体的には下がってきていて、ミスが一切許されない戦いを強いられるようになってきておりますので、最終的にはミス撲滅のための取り組みは必要です。

しかし、現在小4で、筑駒を受験される予定のお子さんには、多少のミスには目をつぶってでも、「難問」を楽しむ意識を大切にしたいと思っております。

最初の小問（計算問題）をきちっと解ききることはもちろん大切ですが、ラストの難問に早くチャレンジしたいがゆえに最初の小問をパパッとやってしまう、ときには最後まで解く！といった大人には理解不能なことをしてかす子どもたちが、最終的には合格していきます。

そういった傾向があるならば、まずは認めてあげた上で、「計算は余白の端から始める」とか「筆算のケタだけは何が何でもそろえる」といった約束事をひとつずつ増やしてみると、お子さんも改善に向かって動き出しやすいかもしれません。

「ミスをなくそう！」という声掛けは、小4のお子さんにとっては特に意味を持ちません。

毎年、筑駒志望のお子さんを指導させていただく中で強く感じるのは、筑駒の問題は国語を筆頭に、開成も含め他の受験校とは大きく異なる特徴を持っている、ということです。

すなわち、「書いてある情報」以上の、「世の中」というものに対する知識が求められているのです。

ここを積極的に求めてくるのは現在の中学受験では筑駒と桜蔭のみです。

具体的には、「娘が嫁に行くときの父親の気持ち」とか、「あの人に子どもがいるか聞いてはいけないのはなぜか」など、大人ならなんとなく分かるけれども、子どもにはいまいち分りにくい感覚をたくさんもっている子が得点しやすいのが筑駒の国語です。

このあたりは家庭環境で大きな差が付く反面、感覚的なところも大きく、塾講師でもなかなか指導しにくい部分です。

ですから、お子さんと高い目標を目指して併走されることを決めていらっしゃるお父さんには、お子さんが2年後に向かい合うことになる問題に、前もって実際に目を通していただくようお勧めしております。

お忙しい中、なかなか大変なことかもしれませんが、「ゴール」を具体的に把握することで、それまでの過程で求められること、その中で塾がやってくれて、逆に家庭でフォローしないといけないことが少しずつ見えてきます。

塾の講師などにも、よりよいアドバイスをもらえる具体的な質問ができます。

親子でチームとして高い目標を目指すことは、家族としても非常にプラスの経験になる可能性を秘めています。

可能なら塾の講師や、セカンドオピニオンを求められるプロもチームに加えて、受験勉強自体を楽しみながら前進されますようお願いいたします。

## 相談 7

いつもお世話になっております。

4年生の息子が春期講習から早稲田アカデミーに通っています。

国語以外は、今の通りにやれば、何とか伸びていけそうな気がしますが、国語は、親子とも自信がないです。漢字だけは、得意のようです。

本当に宿題だけやれば成績が上がって行けるか不安です。

家でどんなサポートをしてあげたら良いか、又宿題の遣り方にも何かコツがあるのか？色々と教えて頂けたら、幸いです。

---

ご相談メールをありがとうございます。

中学受験情報局の坂元です。

返信が遅くなりましたことを心よりお詫び申し上げます。

国語の成績をどう伸ばしたらいいか、とお悩みの方は本当に多くいらっしゃいます。

その理由のひとつは、「やるべきこと」と、「やった後の効果」が、必ずしも明確ではないと感じられることでしょうか。

理社であれば知識の暗記、算数であれば問題の種類に合わせた解法の理解・演習と、「やるべきこと」と「やった後の効果」をはっきりさせることができるため、反復練習など、ご家庭でのサポートがしやすい状態にあるといえます。

ですが、国語は普段の生活や経験を土台とする面が大きいからこそ、実は最もご家庭のサポートが活きる教科なのです。

実際にどういう家庭学習が考えられるか、一般的なものをいくつか挙げてみますね。

### ①漢字・知識(ことわざ・慣用句・四字熟語など)の暗記

国語においてもここは特に反復練習とその効果を試しやすい分野です。

お子さんが「漢字だけは得意」とおっしゃるのは、理社の一問一答のように「やれば点があがる」ことがはっきりしているからではないでしょうか？

というわけで、漢字と知識には毎日触れさせることが大切です。

「漢字の学習」などを使って、少量でもいいので毎日練習ができるようなスケジュールを組み、毎回の授業の際に行われる漢字テストで満点をとって、塾の授業中にお子さんが「輝ける」時間を作ってあげたいものですね。

### ②音読

小4のお子さんであれば、設問別の問題の解き方はもちろん、文種別の本文の読み方がまだ身につけていない段階ですね。

説明的文章であれば

「何がテーマなのか」

「筆者の主張はなにか」

「何と何が比べられているのか」

など、物語文であれば

「誰が」

「何をして」

「どういう気持ちになったのか」

といったポイントがおさえられず、結果苦勞して長い文を読んだのに内容が頭に入っていない、点に結びつかない、となるとお子様のモチベーションも下がってしまいます。

そういった文の読み方を身につけるために大きな効果を発揮するのが「音読」です。

塾や学校では1つの文すべてを一人で音読する、という経験はなかなかないものなので、実際に文章全体を「音読」する経験はご家庭でしかできないことであるといえます。

- ・ 漢字は正しく読めているか
- ・ 文節を認識しているか  
(特にひらがなが続く部分では、どこで切っていいかわからないお子さんが多いです)
- ・ 言葉の意味はわかっているか  
(意味を知らない言葉だと、口に出したときもつかえがちです)

等のポイントに注意して、適宜解説を入れながら、宿題で出された文を2度3度と繰り返し読ませてみてください。ベテラン講師の中には6年生になっても音読を重視する講師もいます。

### ③線引き

文の読み方を学ぶ上でもう一つ大事なのが本文への線引きです。

これは②であげた注意すべきポイント(つまり設問で問われることになるポイントです)がどこにあるのかを明確化する作業です。

塾で線の引き方を学んでいる場合、息子さんもそれをある程度は実践されているかもしれませんが、それでも小学4年生が自発的にポイントを押さえた線を引くことは難しいです。

ノートをチェックして、お母さまもどこにどういう印をつけるのかを確認し、息子さんと一緒に宿題で出された文への線引きをチェックしてあげてください。

②の音読と並行しておこなってもいいかもしれません。

もしまだ塾で線の引き方の指導がない場合、まずは以下のポイントに印をつけることから始めてみてください。

- ・ 物語文 登場人物の名前  
心情が読み取れる部分
- ・ 説明文 「しかし・ところが」などの逆接の接続詞  
「～しなければならない・～してはならない」などの強い主張の言葉  
「つまり・したがって」の後の文(前の文のまとめになっています)

#### ④心情の説明

物語文では心情の読み取りがメインになってきますが、まだ人生経験が少なく、知っている「気持ち」のストックも少ないお子さんでは、なかなかそれら登場人物の心の機微を自分の力だけで理解するのは難しいものです。

お子さんを一番近くで見てきたお母様であれば、

「登場人物Aの気持ちはあの時の気持ちと似てないかな？」

などと問いかけることで、お子さんのストックの中から、登場人物の心情に近いものを結びつけることができます。(本人ではなくお友達の心情を想像させることも有効です)

お子さんが心情をなんとなく思い出せたら、

「それは『せつない』っていう気持ちなんだよ」

といったように語句と気持ちを一致させてあげてください。(これはただ「せつない」を辞書でひいてもできない作業です)

こういった作業を繰り返すことで実際に経験していないことでも、状況や人物のしぐさ・表情から心情を読み取り、それを説明することができるようになります。

上にあげたのは、特に集団塾では細かいところまでチェックが行き届かないポイントです。

このあたりをご家庭でフォローしてあげることで、塾とご家庭の2方向から、国語の成績を上げるための効果的なサポートをすることができます。

実際に本格的に問題の解き方を学んでいる場合、例えば選択肢を選んだ/消した根拠がはっきりしているかどうかの確認などもご家庭でおこなえることではありますが、まずは上記の点から、無理のない範囲で実行してあげてください。

点数もちろん大事ですが、線引きが自分で過不足なくできた等の小さな点でも達成感を感じられるように、その都度褒めてあげることが大切です。

以上、一般的なご家庭での国語の学習サポートの方法を何点かあげさせていただきましたが、いきなりやろうとしてもなかなか難しいものです。

授業を公開している個別指導教室などで、実際にプロがお子さんの読み方を、どのように向上させているのかを参考にされてみるのも良いかもしれませんね。

また学習が進めば新たな不安点・疑問点が出るかと思いますので、その際は是非またご相談ください。

中学受験情報局 坂元

## 相談 8

この春からサピックスに入塾しようか迷っています。  
入塾テストで合格ラインぎりぎりの点数でした。  
下位のクラスでサピックスに入るなら他の塾のほうがいいですか？  
志望校はサピックスが一番合格率が高かったのです。

また、集団授業についていけるのか心配です。  
もし成績が伸び悩むなら最初から個別指導のほうがいいのでしょうか？  
受験ばかりにお金をかけられないので、塾と個別の併用は考えられません。  
塾の個別指導もあるようで、それだけで、受験対策もしてもらえるのでしょうか？

---

ご相談メールをありがとうございます。  
中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

親御さんがお子さん一人一人の将来に関して一生懸命お考えになっていらっしゃる様子が伝わってきます。  
お子さんにぴったりあった塾を選ぶ、というのは本当に難しいものですね。

まずは塾選びにあたり、ご家庭として何を優先されるのかを整理してみましょう。  
難関中学に合格する、ということをもっと優先に考えると、やはり **SAPIX** に通い、日々の復習やテストの直しまで含めた学習サイクルの確立に集中するのが王道でしょう。  
スタートが下位クラスなのであれば、どうすればクラスを上げられるかを考えるのみです。

しかし、子どもの成長を考えると、それ以外にもいろいろな要素が上がってくるものです。  
**SAPIX** は他塾に比べると、特に 4、5 年のうちは塾の拘束時間が短い方です。  
それはお子さんにとってプラスにはたらくでしょうか。  
あるいはどうすればプラスにできるでしょうか。

また、集団の中で上位にいることによって手に入れられる自信を、慢心するのではなく、解ける問題を増やすためのアクションにつなげられるでしょうか。  
もしそうだとすれば、**SAPIX** で下位クラスにいるよりは別の塾を検討した方が良いかもしれません。

いずれにせよ、「なんでもしてくれる」塾は無いという意味では塾選びに「正解」はありません。  
現在、新小 4 でしたら、もし合わなかった場合に転塾するという選択もあります。  
ご家庭の教育方針とお子さんの個性から導かれる、塾に求めたい要素に優先順位をつけて、そこに合う塾に通われることをお勧めします。

また、お子さんのパーソナリティにもよりますが、集団塾と個別との併用が選択肢にないのであれば、少なくとも 4 年、5 年のうちは集団塾にお通いになった方が良いかもしれません。  
今、中学受験の問題は、大きな傾向として、難問・奇問が減っていく代わりに、非常に幅広い知識を求めるものになっています。志望校も決して例外ではありません。

個別指導は一般的に集団に比べ、一回の授業で「分かるまで」説明してもらえるというメリットはありますが、他方で、一回の授業で教えてもらえる情報の「量」は必ずしも多いとは言えません。分かりやすく申し上げると、勉強の大半を個別指導に任せた場合、「先生が知らないことはお子さんも知らない」というリスクが発生します。

新出事項が続く小5までは、可能な限り集団授業を受けて、塾のテキストを活用しながら自分の力で「復習」する技術を磨いて行った方が良いかもしれません。

親御さんも含めた周囲の大人たちがすべき最優先の役割は、「勉強の仕方」を教える、ということになります。

6年後期に入って基本的な知識や解法が頭に入り、実際の志望校対策に入る時期になると、集団塾をやめて個別指導に移行する選択も出てきますが、それはもう少し先の話ですね。

以上、簡潔ではございますが、ご相談に対する回答とさせていただきます。

お子さんとご家庭のお力になれますよう心より願っております。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康

## 相談 9

息子は受験すると言っていますが、勉強は意欲的ではありません。  
むしろ勉強に関しては嫌々やっているように感じます。  
開成を受けると言ってみたり麻布を受けると言ってみたり...(汗)  
自分から机に向かう姿は見たことがありません。  
塾の授業は分かっているようで、一回解いてみると正解しています。  
テストでは時間も足りずミスが多いので、訓練が足りないと感じています。  
クラスは行ったり来たり...どの様に勉強を進めて行けば良いか悩んでいます。  
ご指導宜しく申し上げます。

---

ご相談メールをありがとうございます。  
中学受験情報局の主任相談員の西村則康です。

お悩みを拝読する限り、お子さんにとって「テスト」が自分の実力アップを実感できる場になっていないことが、お子さんの勉強に対するモチベーションを大きく下げているように見受けられます。  
やはり、心のどこかで「テスト」を楽しんでいるのが上位生であり、できるならお子さんにもそういった気持ちを持ってもらいたいものですね。

大人の視点から見ますと、テストの結果は日々の学習の積み重ねの上にある、というのは当然のことですが、多くの受験生のお子さんを拝見していると、10歳前後のお子さんにとって、これは決して当たり前のことではないことが分かります。

授業をうけること、宿題をやること、といった1日1日の学習が「独立」していて、「何月何日のテストで〇〇点をとるための学習」になっていないお子さんが非常に多いのです。

「授業は分かっているようで、一回解いてみると出来」るのに、テストの点が伸びない、という現象の大きな原因が、ここにあるかもしれません。

もちろん、もうすぐ5年とはいえ、まだ受験までは2年あります。  
テストにおける時間配分に関する約束事を決めたり、ミス対策として問題文の特定の箇所に印をつける、などのさまざまな具体的な対策を実行してみたりして、試行錯誤を繰り返す時期ではあります。  
しかし、「訓練が足りない」から、即、たくさん問題を解こう！という方向に行くのは、時としてベストな選択ではないことがあります。

もし、お子さんが、授業の説明を聞いて、その特定の問題の解き方を丸ごと覚えることによって解けるようになっているのであれば、ぜひ、その問題を解くときに、どのようなことに気を付けたのかを1行、ひと言でも良いので、ノートにメモする習慣を作ってみるのは、学習を一步前に進めるよい方法です。

大人の言葉で言えば、類似問題を解くときにカギになる思考の糸口、ですね。

「～を求める問題では、まず作業として〇〇をする」

といった、その章の解法の肝になる部分です。

こういった習慣を身に付け、日々の学習が積み重なっていくイメージをお子さん自信が持つことができれば、自然とテストの成績が上がる予感がお子さんの中に芽生えます。

その結果としてテストに対する意識を変えていけば、自然と「時間の使い方」や「ミスへの意識」も試行錯誤していくようになります。その経験こそが、本番におけるお子さんの「自信」、そして「合格」へとつながっていきます。

本人の意識が高まってきたときに、でも実際に何をどうしたらよいのか分からない、というのであれば、そこはプロの出番です。

頼ることのできる塾の先生や、受験事情に精通し、お子さんひとりひとりにあったアドバイスを差し上げられる個別指導講師などにご相談になれば、ご相談内容が具体的であればあるほど、より精度の高いアドバイスを手に入れやすくなります。

お子さんが「解き方を暗視した問題ではなく、解くためのコツが分かっている問題」をひとつずつ増やし、2年後により成功体験を積まれるために、本回答がわずかでも参考になれば幸いです。

中学受験情報局 主任相談員 西村則康